＜学校名＞　伊奈町立南中学校
＜所在地＞　伊奈町小室３００１
＜電　話＞　０４８－７２３－１１１７
＜本事例の特徴＞

本校は令和４年度からネパールとの年間２回のオンラインでの交流を開始した。ネパールの生徒たちは英語が堪能であり、本校生徒はリードしてもらうことも多いが、グループで協力したり、SDGs などの共通の話題について調べたりと回数を重ねるごとにステップアップしながら交流を続けている。

＜具体的な取組や成果＞

〇ジャパン・ネパールプロジェクトについて

Japan-Nepal Project と題し、オンラインでネパール・GEMS（ジェムズ）校と英語で交流を行った。ネパールの公用語はネパール語であり、両国にとって英語は第一言語ではないという共通点と、当時の南中 ALT がネパール出身であったことから実現した。

１回目は自己紹介と「お気に入りのもの」を紹介し、２回目は自国の文化について互いに伝え合った。また、フリートークの時間も設け交流を深めた。この交流は、お互いがそれぞれの文化的、宗教的背景などの立場を理解し、共存、共栄を図っていくなど、国籍に関わらずそれぞれの個性と能力を十分に発揮して共に地域を支え合う、活力ある豊かな多文化共生社会づくりの一つとして取り組んだ。

〇大切にしたこと

ア　互いを尊重すること

プロジェクトで重要視したことは、「互いを尊重すること」であった。相手の話を聞くときは、相手をきちんと見て一つ一つに丁寧に反応をする。そして、全力で相手の言葉を聞き取る努力をする。また、こちらが伝えるときは、相手を見て笑顔で、誠意をもって一生懸命伝える。生徒たちは英語を正しく伝えることよりも、同年代の生徒と時間を共有し合う中で、相手を受け入れ、尊重することを大事にして、交流を深めていた。

イ　言葉を超えた関係

交流は２回とも同じ相手だったためお互い旧知の仲になり、更に笑顔が増えた。写真や実物、パワーポイントを用いて自国の文化を紹介し合った。特に、日本のアニメはネパールの生徒も興味を示し、**「目の前の相手に伝えたい」**という姿勢が両国の生徒から感じられた。伝え方も身振りや手振りを駆使していた。そこには言葉を超えた関係があり、数十分間で友人関係を築き上げている光景があった。中学生たちの素直さと柔軟さに驚かされた瞬間だった。

ウ　交流を終えて

交流後、両校それぞれの生徒に振り返りを行った。全体の約９６％の生徒が「プロジェクトを楽しめた」、９５％が「来年度も参加したい」と回答した。南中生徒の感想には、「僕が英語を聞き取れずに困っていると、GEMS 校の子がノートに伝えたいことを書いて見せてくれたお陰で、理解できた。」「ネパールの子たちは、私たちの上手でない英語でもしっかり反応してくれた。とても嬉しかった。」という言葉があった。相手に寄り添う気持ちを、生徒たちは体験から学んでいた。